

# 総裁 今井 敬



## 総裁 今井 敬

日本経済団体連合会名誉会長  
新日本製鐵（株）相談役名誉会長

この度、日本棋院より最高の称号である総裁職を委嘱されました。初代総裁の牧野伸顕先生から数えて私が8代目となりますが、大変光栄に思っております。

日本棋院は本年、創立80周年を迎え、様々な記念事業も行われています。近年、囲碁の国際化はいよいよ進展してまいりましたが、一方で残念ながら国内の囲碁人口は減少しつつあり、囲碁愛好家の高年齢化も進んでいるように思われます。また、プロ棋士の世界でも国際棋戦の成績は必ずしも芳しいものとは申せません。

棋院といたしましては、まずは囲碁人口の増加に向けた努力が必要ですが、とりわけ、子供達への囲碁普及に如何に取り組むかが極めて重要だと思います。その意味で、今年から始めた全国小・中学生囲碁団体戦の開催は大変良い企画であり、囲碁文化の底辺拡大に大いに資するのではないかと考えます。

また、棋院の財政基盤を強化し、プロ棋士が心置きなく国際棋戦においても活躍出来るようにすることも大切です。幸い、利光前理事長、加藤新理事長はこれまで、大手合改革を始め、棋院の改革を強力に推進してこられました。今後、この歩みを更に進めていくことが重要であります。

プロ棋士と囲碁愛好家が一体となり、囲碁というこの素晴らしい日本の伝統文化を継承・発展させるべく、私も微力ながらお役に立てれば幸いです。

## 理事長 加藤 正夫



### 理事長 加藤 正夫

昭和22年3月15日生（57歳）

昭和39年入段 現九段

理事長就任以来2ヶ月がたちました。日本棋院が抱える問題と、その将来を考えると理事長としての重責に身が引き締まる思いです。これから皆さんといっしょに“再生日本棋院“を合言葉に本来の目的である「囲碁の普及」とそれを進める土台となる「棋院の経営改革」に力を入れ、次の時代にふさわしい日本棋院に変えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

私が副理事長だった、これまで2年間を振り返りますと経費削減など、細かい点の改善が進んでいます。平成14年度に、過去8年間の連続赤字でいまにも倒産状態か、という危機的状況からは脱しました。けれども囲碁ファン、スポンサー、職員、そして私たち棋士にとって、「本当に満足すべき状況か？」か、という決してそうは思いません。とりあえず対処療法をしたところで、将来を見据えた抜本的な改革はまだ道半ばだと考えています。

「囲碁の普及」については、この2年間も繰り返し語っていますが、子供の囲碁ファンを増やします。今までも、団体戦の新設、文部科学省との連携、中高一貫校での囲碁特別採用などに着手していますが、さらに実行面に軸足を移していきます。ヒカルの碁を一過性のブームから定着に移行させるこの時期を逃したくありません。

一方では世界における囲碁の総本山として、プロ棋士の間に更に競争原理を取り込むなどして棋力強化をはかります。また国際レーティングの導入など世界への働きかけも行います。

「棋院の経営改革」は、別の言い方をすると、日本棋院の古い体質を変えることです。私の目から見ても、おかしいな、と思うことがたくさんあります。棋院の組織、仕事の進め方、会員制度のあり方、赤字体質、各種報酬制度など、その一つ一つについて新しい日本棋院を作り出すべく、皆様といっしょに真摯に問題に取り組み、着実に改革を実行していきたいと思えます。